

平成30年3月

普及活動報告

～作業を進める上での課題は？～
ネギ6次産業化を行う起業家を支援
(亀岡市：6日)



コーディネーターとして話し合いを進める
普及指導員（右端）

九条ねぎの生産から加工・販売まで手がける(株)西陣屋では、高品質なネギを安定して生産することが課題となっています。そこで普及指導員がコーディネーターになり、平成29年作の栽培を振り返りながら、課題となった事柄などについて従業員の意見を引き出しました。

「定植機を導入してから、マルチがうまく張れていないと植付の精度が悪い」「そのためには土壌条件の良い状態でマルチを張るのが大事」などの意見が出されました。今後は、ほ場条件や天候などを見極め、どの作業を優先するのかなどについて細かな連絡を取り合うことを確認しました。

場 所 宮前町神前
出席者数 9名

(株)西陣屋：南丹市八木町、亀岡市を中心に九条ねぎの
栽培面積約7ha。

平成30年3月

普及活動報告

～京の輝き栽培研修会を開催～ 生産量の確保に向けて

(全域：6・8日)



酒造用掛米「京の輝き」のさらなる増産を目指して研修会を開催し、あわせて交付金の概要説明と面積拡大を呼びかけました。普及センターは、平成29年度の共励会の結果を報告するとともに、「株間18cmで移植」「適期中干しで無効分けつを減らす」など増収のための栽培の要点を説明しました。

研修会では「栽培や交付金について説明の場があるのは有り難い」「交付金の情報提供が遅い。来年度はもっと早く知らせて欲しい」という意見が出ました。普及センターは引き続き、農家の収益向上を目指して巡回指導を強化するなど、栽培支援を行っていきます。

場 所 JA京都園部黒田支店(6日)
JA京都丹波支店(6日)
JA京都亀岡中部支店(8日)
出席者数 66名

京都丹波米良食味推進協会はJA京都、亀岡市、南丹市、京丹波町、農林センター、南丹広域振興局(企画調整室・普及センター)で構成。京の輝きのH29要望量2,104t、H29供給量1,745t、H30要望量2,256t(府全体)。

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年3月

普及活動報告

～農薬の適正使用を！～
ガレリア朝市部会で講習会を実施
(亀岡市：7日)



農薬使用方法の解説

ガレリア朝市野菜部会では、より安心・安全な農作物の供給を目的に、農薬の使用記録簿の記帳に取り組んでいます。そこで普及センターから、農薬の適正使用、農薬ラベルの正しい見方、使用記録簿を作成するメリット等について講義を行いました。

生産者から、「使用記録簿への記帳は、害虫の発生時期の確認や、農薬のローテーション散布に役立てられる」と、使用記録簿の作成について前向きな意見が出ました。今後も普及センターは朝市生産者への技術支援を行っていきます。

場 所 ガレリアかめおか
出席者数 50名

朝市部会員：112名（平成29年4月現在）

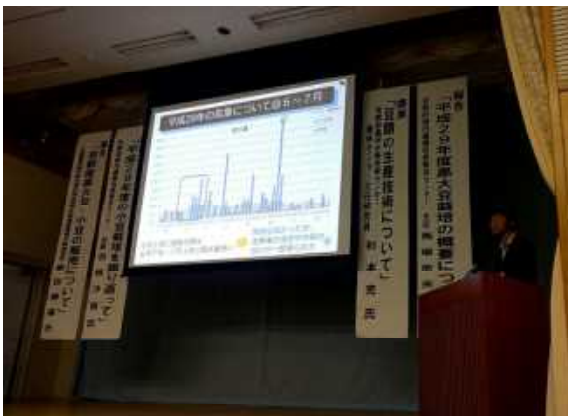
京都府南丹農業改良普及センター

平成30年3月

普及活動報告



優秀生産者を表彰



普及センターから栽培概要や生産技術を紹介

～今年度の生産の振り返りと生産技術を学ぶ～ 京丹波町小豆・黒大豆生産者大会 (京丹波町：7日)

はじめに小豆品評会や黒大豆求評会における優秀生産者が表彰され、続いて農林センター作物部の杉本主任研究員から「豆類の生産技術について」と題した講演の中で黒大豆の栽培技術や雑草問題について説明が、普及センターからは、平成29年度の小豆や黒大豆の生育概要や早播き・摘心技術などを紹介、全農京都からは京都府産黒大豆・小豆の販売状況について報告がありました。

「外来雑草が入ってくるのをどうにかして止められないか」など生産者からの声があり、出席者全員で京丹波町における小豆・黒大豆生産の状況や課題を共有しました。今後とも関係者が連携して需要の高い小豆・黒大豆の生産拡大を支援していきます。

場 所 道の駅「和」

出席者数 67名

表彰：小豆品評会 入賞者5名、黒大豆求評会 入賞者5名、黒大豆優秀農家1名。
生産面積（京丹波町）：H29は小豆22.2ha、黒大豆60.9ha、H28は小豆22.4ha、黒大豆55.4ha。

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年3月

普及活動報告



新役員のあいさつ



加工品を試食しながら交流

加工活動を紹介しあう ～加工研究会が総会・交流会を開催～

(全域：13日)

総会では、今年度の活動の振り返りと今後の取組について協議するとともに次年度の新役員を承認しました。交流会では、持ち寄った加工品を試食したあと小グループに分かれ、加工活動で困っていることや勉強したい事等をそれぞれ出し合い、交流を深めました。

「会員同士でもどこのグループが何を販売しているのか分からない」という声を受けて、交流会を行いました。「加工品を見て、味わって、話をする事で場も和み、小グループでの話がしやすかった」との声がありました。普及センターは引き続きグループの活動を支援していきます。

場 所 園部総合庁舎
出席者数 34名

南丹地域農村女性・加工研究会：H29会員数70名（29年4月現在）。

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年3月

普及活動報告



環境にやさしい農業について説明



北金岐環境保全会の活動について説明する渡邊代表

～環境にやさしい農業って？～
亀岡市大井町営農振興会研修会で
講演 (亀岡市：15日)

亀岡市大井町営農振興会では、同町内でエコファーマーとして冬期湛水や農地保全、米の栽培・出荷を行う北金岐環境保全会から取組状況の説明が行われました。普及センターからはその報告に先立ち、環境にやさしい農業の諸制度等について説明を行いました。

地元での取組事例の報告に、参加した会員は熱心に耳を傾けていました。北金岐環境保全会では、環境保全型農業直接支払交付金の交付要件が変わることから、GAPの取組みを進める研修を積極的に行うなど、今後の方向についても説明がありました。

場 所 並河公民館
出席者数 40名

平成30年3月

普及活動報告

～直売所への出荷増に向けて～ 「京丹波味夢の里」研修会

(京丹波町：16日)



普及センターから栽培基礎の説明や作物の提案を行う

普及センターから味夢の里へ出荷している生産者向けに、土づくりの基礎知識や雑草対策のポイントの説明、また新品目の提案などを行いました。雑草対策では、問題となっている外来雑草について説明をし、蔓延防止に向けた協力を呼びかけました。また、企画調整室からは、食品表示に係る法律とその方法について説明がありました。

「土づくりの基礎的な部分を学べて良かった」などの声があり、また食品表示について多くの質問が出るなど熱意を感じました。普及センターは、直売所に出荷物が安定供給できるよう、引き続き研修会を行うなど年間を通じた支援を行っていきます。

場 所 道の駅「京丹波味夢の里」
出席者数 32名

平成28年度直売所全体の売上金額 4億2800万円（前年比128%）（会員数236名）。

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年3月

普及活動報告

～今後の管理に生かす～ ハウレンソウ栽培研修会を開催

(京丹波町：19日)



土壌の管理について熱心に聞き入る生産者

ハウレンソウ部会員のハウスでは、塩類集積の傾向が見られることから、今後の土づくりに活かすため5ヶ所の土壌調査を行いました。その結果をふまえ、京都学園大学藤井教授から、肥料削減対策について説明され、普及センターからは、ハウス内の換気や生長の早まりによる収穫遅れに注意を呼びかけました。また、春に発生が多いケナガコナダニの防除方法について説明しました。

農業者からは「土づくりは誰もが興味のあるところ。大変参考になった」「ケナガコナダニの発生が多く、困っている」などの声が上がりました。普及センターは、引き続き高品質のハウレンソウの安定生産を支援していきます。

場 所 JA京都瑞穂支店
出席者数 17名

JA京都瑞穂支店出荷量は、平成27年度2.6t、平成28年度2.5t。

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年3月

普及活動報告

サル被害を避け！～南丹地域野生鳥獣被害対策チームが複合獣害柵展示ほ設置～

(全域：28日)

近年、サルによる農作物の被害が多発している京丹波町質志で、地元住民と共に、サルに対して効果の高い獣害防護柵「おじろ用心棒」の設置作業を行いました。

同地区で初めての取組であり、普及効果を考慮し公民館近くに設置しました。柵を設置したエダマメ農家は「こまめに電圧をチェックして、被害を受けないようにしたい」と、今後のエダマメ生産に意欲を見せていました。普及センターは同対策チームの一員として、今後も獣害対策の基礎知識を提供し、被害削減に向けて集落ぐるみの活動を支援していきます。

場 所 京丹波町質志

出席者数 10名



チーム員が柵設置のポイントについて説明

南丹地域野生鳥獣被害対策チームは、管内各市町、農林センター（環境部・森林部）、南丹広域振興局（森づくり推進室・地域づくり推進室・企画調整室、普及センター）で構成。